

お見舞い

早いもので今年も半分が過ぎて、7枚目のカレンダー。夏の風物詩の花火のシーズン到来、7/4 米海軍横須賀基地では米国独立記念日の花火がいち早く打ち上げられ、梅雨の合間を縫っての今季初物を鑑賞したが、九州を想えば気が引ける。梅雨がまだ明けない関東地方だが、鹿児島、熊本など梅雨を超えた雨被害で心からお見舞いを申し上げたい。梅雨は日本の地理的に沿った季節の変わりを知る事の出来る自然の贈り物だが「線状降雨帯」などと言う新たな変化に困惑する。

日本がんコンベンション

「25th 日本がんコンベンション」とは聞き慣れない言葉かも知れないが、コンベンションとは単純に「会議」のこと、国際的な情報交換や議論の場が増えた現在は英語の多用に慣れて、親しみをもちたいもの。

さて、本題の「25th 日本がんコンベンション」は25年も前から『癌治療』の国際的な会議で医師をはじめ医療機関、研究機関、薬学関係などの参加者により民間主導で数日間を費やして開催されてきたもの。

今回のコンベンションは東京で2日、京都で1日と総計で20名のドクター、研究者、医療関係者などの講義を含めた相応の専門性と併せて具体的な実例など長時間だが有意義な勉強の場となっている。

米国の「がんコンベンション」は今年8/29~9/7とロスアンゼルスで47回を数えることになる。

わが日本は長寿国でありながら、『ガン罹患率』は今や世界一となって、間もなく2人に1人になると言われているが、一方、米国ではガンの罹患率も死亡率も減少傾向にある。本紙、Vol.274 (2018.11)で

「マカバレポート」や「フェイスデイ」の概要を述べたが米国では対症療法から予防への波動が高くビーガン(ベジタリアンともいう菜食主義の中でも動物性食品を一切摂らない)がこの数年で6倍にも増えている。自らの健康は自身で守るという信念を持つことが大切で昨年はダラスの某会議でアフリカの登壇者が「医師」も「薬」も無い現実に自ら健康を守る大切さを涙で訴えていた。

病気になるための予防は医療体制などへの批判や風刺ではなく人々はお医者様任せで余りにも無関心ではないだろうか。古代ギリシャの医師ヒポクラテスは「医者が治せない病気はすべて食べ物である。食べ物で治せない病気は医者も治せない」とりわけ心の健康(笑いと哲学)と併せて健康な日々を過ごしたい。[ホリスティック医学][クワシクル]など身のまわりに医療的な言葉が氾濫する昨今だが、自ら機会を求めることで「ガンは怖くない」と自信を持ちたいものである。

(文責・生活習慣病予防学術委員会 代表理事 野中宏泰)

TOPICS

- 1、業務用 大型浴水循環濾過装置 更改契約 千葉県我孫子市 T建設単身寮 7/3
- 2、業務用 大型浴水循環濾過装置 更改提案
(1) 三浦市 N老人ホーム 6/28 (2) 横浜市 M老人ホーム 6/23
- 3、家庭用 「浴室リフォーム」企画提案 横浜市 A邸 6/23